

3. 各科指導医リスト

◎は指導責任者

診療科	職名	氏名	資格	卒業年次
呼吸器内科	部長	◎藤井 達夫	日本内科学会指導医 日本呼吸器学会専門医	昭和 63 年
	医長	岡本 隆司	日本内科学会認定専門医指導医 日本呼吸器学会指導医 日本呼吸器内視鏡学会専門医	平成 5 年
	医長	松村佐恵子	日本内科学会認定内科医	平成 11 年
循環器内科	部長	◎成山 仁	日本内科学会内科総合内科専門 医・指導医 日本循環器学会専門医 日本心血管インターベンション学 会指導医	平成 3 年
	医長	宮本 裕之	日本内科学会認定内科医	平成 14 年
	医長	篠塚 知広	日本内科学会認定内科医	平成 15 年
消化器内科	部長	◎清水 誠治	日本内科学会認定医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導 医・学会評議員 日本消化器内視鏡学会専門医・指 導医・学術評議員・和文誌査読委 員 日本大腸肛門病学会指導医・評議 員 日本大腸検査学会評議員 日本消化管学会評議員	昭和 58 年
	副部長	森 敬弘	日本内科学会認定医 日本消化器病学会専門医	平成 5 年
	医長	横溝 千尋		平成 15 年
	医長	三宅 清花	日本内科学会認定内科医	平成 16 年
血液内科	部長	◎和田 勝也	日本内科学会認定内科医・指導医 日本血液学会認定専門医 近畿血液学地方会 評議員	昭和 59 年
	医長	菅野 安喜		平成 12 年
	医長	高 起良		平成 5 年

糖尿病・代謝 内科	副院長	◎北川 良裕	日本内科学会認定内科医・指導医 日本糖尿病学会専門医・指導医 日本内分泌学会専門医・指導医・ 英文誌査読委員 日本内科学会（近畿）評議員 日本糖尿病学会評議員 日本内分泌学会代議員 日本病態栄養学会評議員 日本医師会認定産業医	昭和 52 年
	医長	大西 正芳	日本内科学会認定内科医 日本糖尿病学会専門医	平成 10 年
	医長	最上 伸一	日本内科学会認定内科医 日本糖尿病学会専門医	平成 11 年
リハビリ科 (神経内科)	医長	山本 孝徳	日本神経学会神経内科専門医 日本内科学会認定内科医	平成 6 年
小児科 松下記念病院	部長	石田 宏之	日本小児科学会専門医 日本血液学会指導医	昭和 63 年
	副部長 主任	内藤 岳史	日本小児科学会専門医	平成 6 年
		田村 真一	日本小児科学会専門医	平成 11 年
		森 潤	日本小児科学会専門医	平成 12 年
精神科 大阪鉄道病院	部長	◎江村 成就	精神保健指定医 日本老年精神医学会認定医・指導 医 日本睡眠学会認定医 日本総合病院精神医学会認定医・ 指導医	平成 2 年
	院長	坂本 栄	精神保健指定医 日本神経学会臨床認定医 日本リハビリテーション医学会臨床認定医 日本医師会認定産業医	昭和 56 年
	副院長	上田 敏朗	精神保健指定医	平成 9 年
大阪さやま病院				

皮膚科	院長	◎岸本 三郎	日本皮膚科学会評議員 日本研究皮膚科学会評議員 日本皮膚悪性腫瘍学会評議員 日本皮膚外科学会評議員 日本アレルギー学会評議員 日本皮膚アレルギー学会評議員 日本皮膚電顕生物学会理事 日本乾癬学会評議員 日本褥瘡学会評議員 日本産業皮膚衛生協会理事	昭和 47 年
	医長	國本奈津子	日本皮膚科学会認定専門医	平成 9 年
放射線科	部長	◎大野 浩司	日本医学放射線学会認定医専門医 日本血管造影・IVR 学会指導医 日本救急放射線研究会世話人 日本腹部放射線研究会世話人 関西 IVR 学会世話人 関西アンギオカンファレンス世話人	昭和 56 年
	医長	大内 宏之	日本医学放射線学会放射線科専門医	平成 9 年
外科・胸部外科	部長	◎下出 賀運	日本外科学会専門医	昭和 58 年
	副部長	赤見 敏和	日本癌治療学会会員 日本消化器外科学会指導医	昭和 60 年
	医長	麦谷 達郎	日本外科学会指導医 日本消化器外科学会専門医	平成 2 年
	医長	武村 学	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医	平成 7 年
	医長	清水 啓二	日本外科学会専門医 I C D 認定医	平成 7 年
	医長	荻野 史朗	日本外科学会専門医 臨床腎移植学会専門医	平成 8 年

整形外科	部長 部長 副部長 医長 医長	◎後藤 一平 朴 智 遠山 雅彦 糸原 朋信 望月佐記子	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会スポーツ認定医 日本脊椎脊髄病学会会員 日本整形外科学会整形外科専門医	昭和 54 年 平成 1 年 平成 3 年 平成 10 年 平成 11 年
産婦人科 大阪鉄道病院 松下記念病院	部長 医長 部長	◎前田 隆義 坂井 昌弘 保田 仁介 広田 千絵	日本産婦人科学会認定専門医 母体保護法指定医 日本臨床学会細胞診専門医 日本産婦人科学会認定専門医 日本感染症学会評議員 母体保護法指定医 I C D 認定医	昭和 53 年 平成 6 年 昭和 53 年 平成 15 年
麻酔科	部長 医長	◎岩阪 友俗 佐々岡紀之	日本麻酔科学会指導医 日本麻酔科学会専門医 麻酔科標榜医 日本救急医学会専門医 日本ペインクリニック学会専門医 麻酔科標榜医 日本麻酔科学会専門医指導医 日本周術期経食道心エコー認定医	昭和 63 年 平成 7 年
救命救急科 大阪警察病院 (ER・総合診療センター) (救命救急科) (救命救急科) (救命救急科) (救命救急科)	部長 部長	◎山吉 滋 岸 正司 渡瀬淳一郎 野村 文彦 梶野健太郎	日本救急医学会指導医 日本外科学会認定医 日本熱傷学会専門医 麻酔科標榜医 日本救急医学会専門医・指導医 日本外科学会専門医 日本救急医学会専門医 日本外科学会専門医 日本救急医学会認定医・専門医 日本麻酔科学会認定医 日本呼吸器外科学会専門医 日本外科学会専門医	昭和 48 年 昭和 62 年 平成 5 年 平成 10 年 平成 11 年

耳鼻咽喉科	部長 医長	◎岡田 博文 宮田 啓史	日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会専門医	昭和 57 年 昭和 51 年
眼科	部長 医長	◎細畠 淳 春田 亘史	日本眼科学会専門医	平成 5 年 平成 14 年
泌尿器科	部長 医長	◎吉村 力勇 米田 幸生	日本泌尿器科学会専門医 日本透析医学会認定医 日本泌尿器科学会指導医 日本透析医学会指導医 日本がん治療認定医 フランス・リヨン大学客員教授 日本泌尿器科学会専門医指導医	昭和 60 年 平成 5 年
臨床検査室 (病理)	部長	◎石田 英和	病理専門医 解剖資格医 細胞診専門医 病理専門医研修指導医 精神保健指定医	平成 7 年
阿倍野区医 師会	理事 理事 会員	神藤 佳孝 富吉 泰久 松井 英	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定スポーツ医 日本整形外科学会リウマチ医 日本リウマチ学会認定医 外科指導医専門医 消火器外科指導医専門医 癌治療認定医 マンモグラフィー読影認定医	昭和 61 年 昭和 60 年 昭和 56 年
東住吉区医 師会	会員	前田 孝雄		昭和 52 年
帝塚山病院	院長	谷口 和久	日本医師会認定産業医	昭和 60 年

4. 研修管理委員会

(1) 研修管理委員会の構成

病院長（委員長）、副院長（プログラム指導責任者）、医務部長（副プログラム指導責任者）、外科部長（副プログラム指導責任者）、診療部長（整形外科部長）、呼吸器内科部長、循環器内科部長、消化器内科部長、血液内科部長、糖尿病・代謝内科部長、神経内科部長、麻酔科部長、婦人科部長、精神科部長、臨床検査室部長（病理）、放射線科部長、眼科部長、泌尿器科部長、皮膚科部長、耳鼻咽喉科部長、大阪さやま病院院長（精神科）、松下記念病院（産婦人科部長、小児科部長）、大阪警察病院（救命救急科部長）、事務部長、企画課長、総務課課長代理、京都府立医科大学名誉教授、八幡中央病院院長、帝塚山病院院長、阿倍野区医師会

東住吉区医師会

(2) 研修管理委員会の役割

1. 研修プログラムの全体的な管理（プログラム作成方針の決定、各研修プログラム間の相互調整）
2. 研修医の全体的な管理（研修医の人事、他施設への出向、研修継続の可否、処遇、健康管理）
3. 研修医の研修状況の評価
4. 研修後、中断後の進路についての相談・支援
5. 研修修了証の付与

5. 指導体制

原則として各科において研修医1名に対して指導医1名を振り当て、直接指導を行なう。具体的には各科研修要領に従う。また、1年次には出来るだけ副直を行い、病棟での救急処置や時間外外来患者の救急処置について学ぶ。

6. 学会認定医、専門医制度の施設指定状況：各診療科のプログラムに記載

7. 研修の記録および評価

研修医に臨床研修到達目標（厚生労働省）の自己評価表を渡し、研修医に記入させ、また病歴や手術の要約を作成させる。指導医は 研修目標の到達状況を把握する。プログラム指導責任者は目標到達状況を把握し、研修終了時までには到達出来るように調整を行う。また、到達状況を研修管理委員会に報告する。研修管理委員会委員長（病院長）は研修医の評価の結果を受けて、研修修了証を交付する。

8. 研修スケジュール

1年目	内科	救急	外科
	6M	3M	3M
2年目	地域医療	選択科目	
	1M	11M	

【1年目】

「内科研修」：大阪鉄道病院 6内科〔呼内・循内・消内・血内・糖内・神内〕6ヶ月

「救急研修」：大阪警察病院 ER 1ヶ月、大阪鉄道病院 麻酔科2ヶ月

「外科研修」：大阪鉄道病院 外科〔整形外科含む〕3ヶ月

【2年目】

「地域医療」：阿倍野区医師会訪問看護、帝塚山病院訪問看護デイケア、阿倍野区の診療所

「選択科目」：11ヶ月のうち、達成目標のため従来通り産婦人科2ヶ月〔松下記念病院1ヶ月・大阪鉄道病院1ヶ月〕、精神科1ヶ月〔大阪さやま病院2週・大阪鉄道病院2週〕、小児科1ヶ月〔松下記念病院〕、麻酔科2ヶ月〔大阪鉄道病院〕から1科目以上を必修選択とする。

(注) 原則として1つの診療科での研修は1名とする。従ってローテーションの順序は研修管理委員会にて調整する。

9. 研修医の処遇

(1) 契約：常勤研修医

(2) 副直：あり

(3) 労働条件：原則として午前9時から午後5時30分まで（休憩45分）、但し研修を行っている診療かにおいて割りあてられた研修内容を満たし、教育的行事には出席しなければならない。

・休日 ⇒ 土・日曜日・祝日及び年末年始（12/30～1/3）

・休暇 ⇒ 特別休暇

(4) 宿舎等：あり

(5) 社会保険制度：あり

(6) 医師賠償責任保険：あり

- (7) 学会・研究会への参加：可、費用負担一部あり（交通費・宿泊費）
- (8) 給与：271,000円(1,2年目) 賞与1.3ヶ月/年
- (9) 健康管理：定期健康診断 2回/年
- (10) 募集人員：2名
- (11) 募集方法：公募
- (12) 応募必要書類：履歴書（写真添付）・学業成績証明書・卒業（見込）証明書・健康診断書（既往歴、自覚及び他覚症状、血圧測定、心電図）
- (13) 選考方法：①試験内容 ⇒ 筆記試験（小論文）・面接試験
②試験日 ⇒ 8月下旬の予定
③試験場所 ⇒ 大阪鉄道病院（3階講堂、中会議室）
- (14) 応募締切：8月中旬 ※ 郵送、持参いずれも可能
- (15) 応募先・連絡先

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町一丁目2番22号
大阪鉄道病院 総務課 担当（佐々木・栗津）
TEL 06-6628-2221
FAX 06-6628-4707

【参考】

① 研修医の出身大学

京都府立医科大学、大阪市立大学、大阪医科大学、関西医科大学、近畿大学、和歌山県立医科大学、川崎医科大学、福井大学、九州大学、信州大学、筑波大学、弘前大学

② 研修後の動向

- ・当院での後期研修 ⇒ 循環器内科、消化器内科、外科
- ・京都府立医科大学、慶応大学精神科
- ・他病院 ⇒ 桜橋渡邊病院、精神科澤病院、大阪労災病院、市立豊中病院、大阪府立急性期総合医療センター